

< タイトル >

肥料を大幅に削減できる露地野菜向け部分施用技術の開発

< 当該研究成果のポイント >

うね立てと同時にうね内に肥料等を部分施用することにより、大規模な土地を使って生産が行われているキャベツ・ハクサイなど葉菜類の栽培において、化学肥料等の使用量を大幅に削減でき、生産コストを低減するとともにこれらの資材による環境負荷を低減できる。「うね内部分施用機」を使用することで、能率的に作業を行うことが可能となった。

< 期待される効果・今後の展開など >

キャベツ・ハクサイを慣行施肥量を70%に削減しても十分な品質・収量を確保できる。さらに移植前の作業工程が簡略化され、生産コストと環境への負荷を大幅に低減できる。

「うね内部分施用機」は本年平成20年より市販されている。

< 研究所名 >

(独)農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センター
東北農業研究センター

< 担当者名 >

中央農業総合研究センター 高度作業システム研究チーム 屋代 幹雄
東北農業研究センター 寒冷地野菜花き研究チーム 松尾健太郎

< 連絡先 >

中央農業総合研究センター情報広報課長 上杉 かおる TEL 029-838-8979
東北農業研究センター 情報広報課長 荒澤 作哉 TEL 019-643-3414

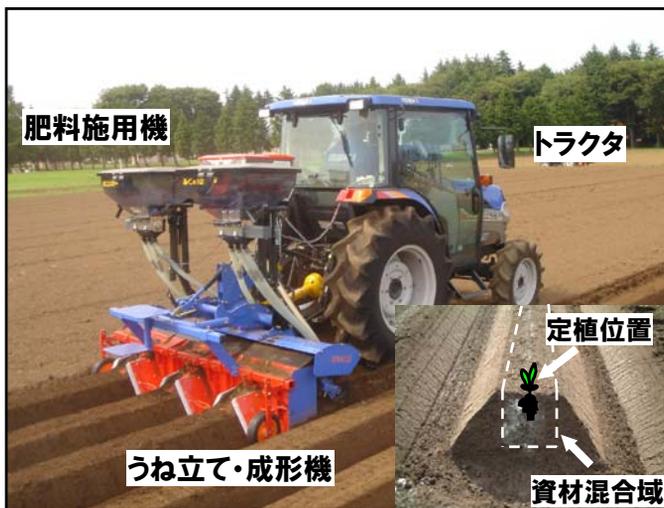
[資料]

技術的特徴

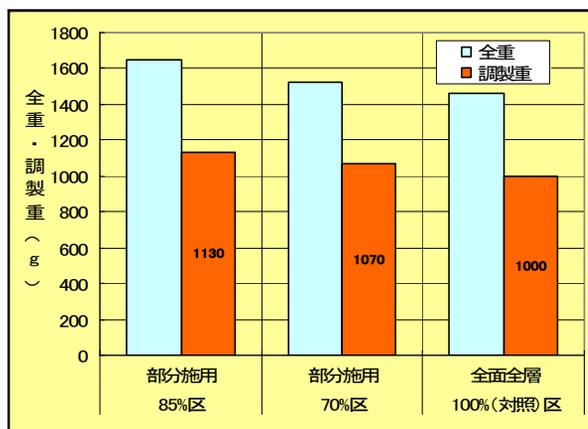
キャベツ・ハクサイ等の葉菜類生産において、うね立て作業と同時にうね中央部の作物に効果がある範囲に限定して肥料等を施用する技術。

期待される効果

- ・慣行施肥量の70%で品質・収量を確保できる。
- ・移植前の作業工程が簡略化される。
- ・施肥量が削減され、生産コストと環境への負荷を低減できる。



うね内部分施用機と資材混合域



うね内部分施用による収穫物重量
(岩手県八幡平市農家圃場、キャベツ)

